

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

10. 嵐の風と波もイエスに従う

デイリー・ジーザス・ニュース #096

奇跡 #13

基本テキスト: MK 4.35-41 (並行テキスト: MT 8.23-27; LK 8.22-25)

35 その日、夕方になったとき、イエスは弟子たちに言われた。 「**湖の向こう岸へ渡ろう。**」

36 彼らは群衆を後に残し、イエスをそのまま舟に乗せてお連れになった。他の舟もイエスと共にあり、弟子たちも従った。37 激しい突風が起り、波が舟に打ち寄せ続けたので、舟は波に飲み込まれそうになり、「彼らは非常に危険な状況に陥った。

38 イエスは艤のところで、クッションの上で眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。

「先生！ ^M主よ！ ^{MT}主よ！ ^M私たちが滅びようとしているのを気に留めないのですか？」

39 イエスは起き上がって風を叱り、荒れ狂う波に命じて言われた。 「**静まれ。命じる。いつまでも静まれ。**」

すると風は止み、すっかり穏やかになりました。

40 イエスは弟子たちに言われた、「**信仰の薄い者たちよ、なぜそんなに恐れるのか。あなたがたの信仰はどこにあるのか。まだ信仰がないのか。**」

41 彼らは恐れおののき、また驚いて、互いに言った。「この人は、いったいだれなのだろう。この人が命令すると、風も波も従うのだ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤのどこか、ガリラヤ湖の近く
タイムライン	5月～10月 (16～21か月目)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

タイトル	10. 嵐の風と波がイエスに従う（奇跡その13）
------	--------------------------

コメント：

第二ガリラヤ巡礼の残りの部分に関する福音書の記録は、イエスによる一連の力強い奇跡を特徴としています。これはよくあるパターンです。福音書記者たちはしばしば、イエスの主要な教えを記述し、その後に、イエスが教え、命じる神聖な権威を持っていたことを示す場面を記します。自然、悪霊、そして病気がイエスの言葉に従ったように、イエスの教えを受け入れる私たちも従うべきです。これが、福音書の内容をこのように構成した論理です。

この6つの連續した奇跡は、福音書の中で最も頻繁に記録されている一連の奇跡です。ここで注意が必要です。イエスはガリラヤでの宣教活動において、実際にこれら6つの奇跡のような奇跡を定期的に行っていました。福音書記者たちは、イエスの集団治癒の出来事を繰り返し言及することで、このことを明確に示しています。共観福音書記者は、イエスが実際に行った奇跡のほんの一部に過ぎない、限られた数の特定の奇跡を強調することを選択しました。それは、それらの奇跡が並外れた教育的価値を持ち、また、他の書かれていない奇跡を代表していたからです。

ですから、これは福音書に記されている奇跡の中で最も多く記録されている一連の出来事です。イエスの記されていない奇跡の中には、これよりもはるかに多くの奇跡が、たった一日で起こったものもあったに違いません。私たちはそれらについて全く知りません。この場合、福音書記者たちがこの途切れることのない一連の奇跡を物語に盛り込むことで、明らかに何かを伝えようとしていたのです。なぜ彼らはそうしたのでしょうか。

第一に、イエスがこのようにして日常的に強力な奇跡を起こしていることを示すためでした。第二に、パリサイ人たちはイエスを悪魔崇拝者であり、その力で働いていると非難したばかりでした。イエスは、自然界を支配する力、一回の悪魔祓いによる多数の悪魔の祓い、病気、生、死、そして失明や難聴といった永久的な障害を解き放つことによって、神のみが行える業を行っていることを示していました。サタンにはこのような力はありません。第三に、パリサイ人たちはしるしを求めていました。イエスは、自分が救世主であることの究極の証明として「ヨナのしるし」を約束しました。しかし、イエスの慈悲心は、助けを求めて群がる困窮者たちに超自然的な方法（しるし）で仕え続けるようイエスを駆り立てました。

六つの奇跡の最初のものは自然の奇跡でした。この場面におけるイエスの描写には、二つの点が際立っています。(1) ガリラヤ湖の危険な嵐の中でも父の計画を信頼し、平安を保っていたこと、そして(2) イエスの言葉の力です。これからこれらについて見ていきましょう。

ガリラヤ湖の激しい嵐の夜、イエスはなぜ赤ん坊のように眠ることができたのでしょうか。波は津波のように次々と船に打ち寄せ、船は急速に水没していました。この湖で人生を過ごした熟練の船員たちは、船が沈むことを確信していました。このような状況下でも、イエスはご自身が信仰によって生きていたように、弟子たちも自分を信頼することによって信仰を働かせることを期待していました。

、「神の子羊」としてエルサレムで十字架に架けられて死ぬことを知っていました。エルサレムにおける「聖書に従って」の死と復活は、地上におけるイエスの生涯の最大の目的であり、イエスのすべてを貫く鍵

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

でした。それゆえ、イエスは、どんなに状況が悪化しても、ガリラヤ湖の嵐で命が終わることはないと確信していました。イエスには平安がありました。

被造物の中に、神の御計画を成就するイエスの生涯を阻むものは何もありませんでした。イエスの生涯におけるあらゆる状況は、御父の摂理的な主権の下にあり、御父の使命を全うするよう命じられていたのです。それがイエスの信仰であり、世界が知る最も偉大な信仰であり、それは御父が万物に対して絶対的な支配権を持っているという確信にしっかりと根ざしていました。

イエスが風と波に命じたことは、二つの点でイエスの力を示しました。第一に、誰が権威をもって自然に語りかけ、それに従うことを期待できるでしょうか。単なる人間には無理です。私たちは自然を制御できません。しかし、神は制御できます。イエスが自然に直接語りかけ、それに従うことを期待できたという事実は、神の偉大なる証明です。第二に、イエスは嵐に命じる際にギリシャ語の完了形を用いました。これは、嵐を即座に止めるように命じただけでなく、湖にガラスの海のように静かに保つように命じたことを意味します。誰がそんなことをするでしょうか。

これが船に乗っていた弟子たちの反応でした。この奇跡は、嵐の真っ只中におけるイエスの平安と、嵐を永久に静める力強い言葉の両方において、イエスの神聖な権威を明らかにしました。弟子たちはイエスに畏怖の念を抱きながらも、同時に畏敬の念と驚嘆の念を抱いていました。私たちもそうあるべきです。

応用：

恐ろしい状況下におけるイエスの信仰の模範は、約6ヶ月前にローマの百人隊長にイエスが称賛した信仰の完璧な例でした（デイリー・ジーザス・ニュース第81朗読、ルカ7:1-10）。それは聖書の中でイエスに語られた父なる神の言葉に基づいており、さらに、全被造物に対する神の絶対的な主権によって支えられていました。イエスはこれらのこと信じ、それに従って生きました。私たちもそうすべきです。

弟子たちのように、信仰がまだイエスに似た者へと成長していない私たちは、状況が崩壊するとパニックに陥り、叫び声を上げてしまいます。弟子たちは正しい行動を取りました。すぐにイエスに救いを求めて叫んだのです。彼らは状況に恐怖を感じながらも、イエスが状況に対処してくださると信じていました。

これはとても重要です。彼らが忘れていたのは、嵐の中でもイエスが彼らと共にいたという単純な真実でした。

危機の中でイエスに起きたことは、彼らにも起るはずでした。そしてそれは、イエスが彼らの救い主であることを意味しました。父なる神の約束と主権的な御心によって、イエスがガリラヤの嵐で死ぬことはなかったのです。それは、彼らも死ぬことはないということを意味していました。イエスがそのような状況で赤ん坊のように眠ることができたように、彼らも眠ることができたのです。そして、私たちも眠ることができるのです。

イエスに従うとき、私たちは神が私たちと共におられ、まさにその状況において私たちを神に似た者とするという御旨を成就するために、あらゆることにおいて働くという絶対的な確信を持つことができます。私たちが祈りにおいて神に身を委ね、神の臨在と約束を信頼するなら、人生のあらゆる状況において神は栄光を受けられます。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

嵐が外的に静まるか、あるいは弱まらないかは、イエスが私たちと共にいて、私たちを怖がらせるものの前でもリラックスできるほどすべてを制御していることを知っている限り、問題ではありません。

神が私たちの切実な祈りに応えてくれず、危機の時に「眠っている」ように見える時、私たちはたいていパニックに陥ります。しかし、本来はその逆です。信じられないかもしれません、危機の時にイエスが私たちの祈りに即座に応えてくれないということは、イエスが事態を完全にコントロールしているということです。つまり、イエスは何もする必要がないということです。私たちはイエスを信頼し、イエスの存在と愛に安らぎを見出すことができるのです。状況がどうであろうと。

あなたは今、どんな嵐の中にいますか？イエスはあなたに、共に眠りなさいとおっしゃっているのでしょうか？あなたはどのように、敬虔な信頼をイエスに捧げますか？